

上山市中心市街地活性化基本計画の概要

1 上位計画を踏まえた中心市街地活性化の基本的な方向性

- ◇ 第7次上山市振興計画の将来都市像である「また来たくなるまち ずっと居たいまち ～クアオルト かみのやま～」の実現に向けて、魅力と活力があふれ、快適に暮らせるまちづくりを志向する。
- ◇ そのため、魅力と活力あふれるまちづくりの観点からは、商店街の機能充実、上山型温泉クアオルト事業等の地域資源を活用した交流人口の増加と観光消費の拡大につながる施策を展開する。
- ◇ また、快適に暮らせるまちづくりの観点では、誰もが利用しやすい公共交通の整備や、安全で快適な住宅環境空間として整備を進める。

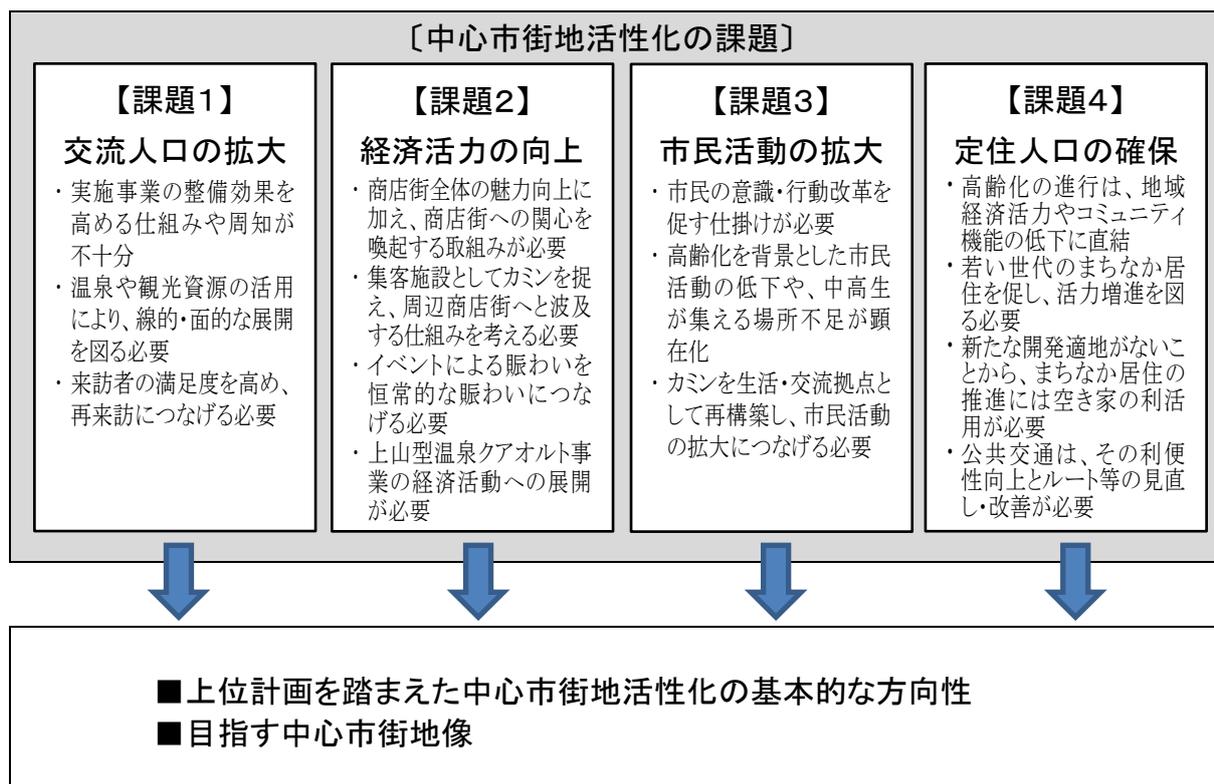
2 目指す中心市街地像

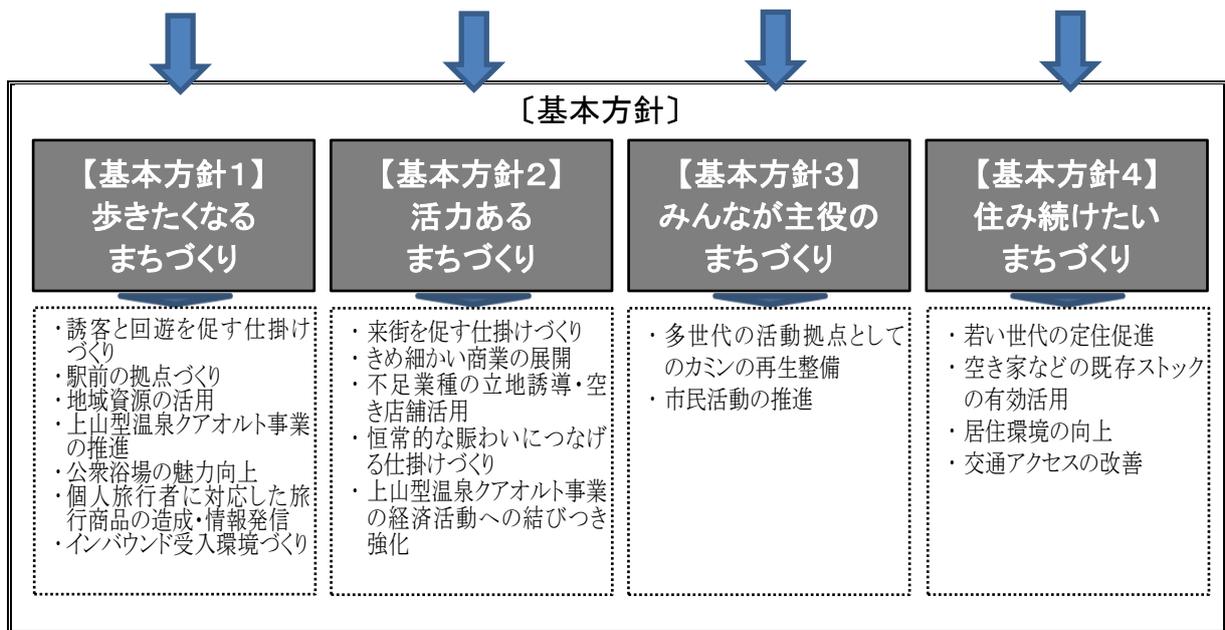
上位計画である「第7次上山市振興計画」で目指している都市の将来像の実現に寄与するべく、また、前計画によるまちづくりの継続性の観点から、新たな計画においても将来像を継承し、次のとおり設定する。

また来たくなるまち ずっと居たいまち

3 中心市街地活性化の基本方針

中心市街地活性化の課題、中心市街地活性化の基本的な方向性と目指す中心市街地像を踏まえて、中心市街地活性化の基本方針を次のように設定する。





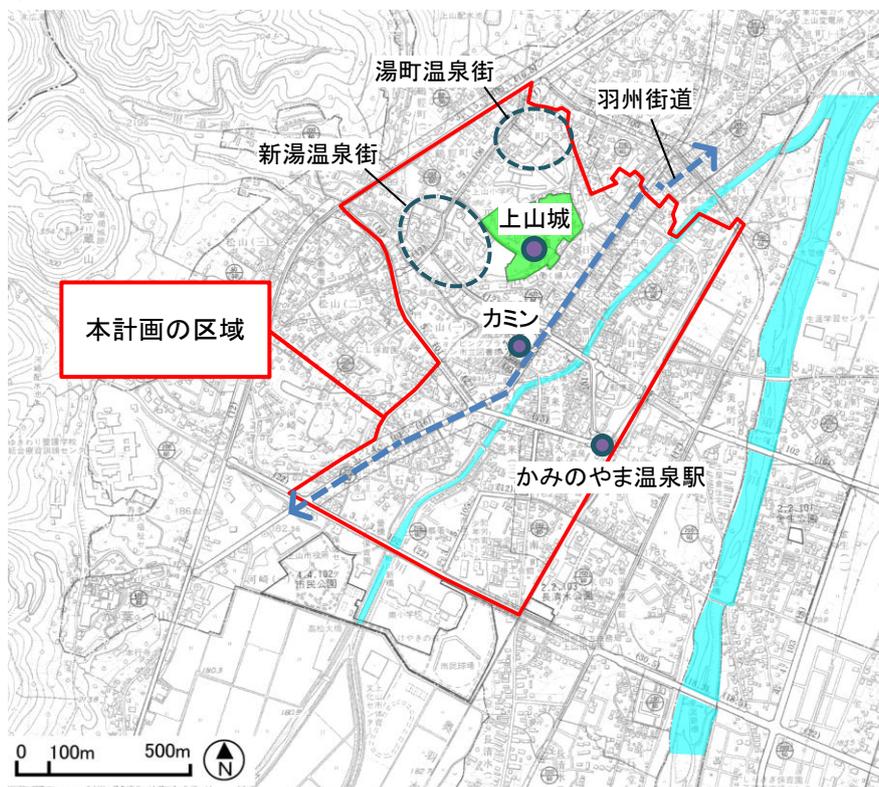
4 計画期間

平成 29 年 12 月から平成 35 年 3 月末まで（5 年 4 か月間）

5 計画の区域

本計画において設定する中心市街地の区域は、前計画と同様、カミンを中心とした半径約 600m 以内の“歩ける範囲”とし、二つの温泉街、上山城を中心とする歴史・文化資源、羽州街道沿いに南北に延びる商業地を繋いだ約 97ha とする。

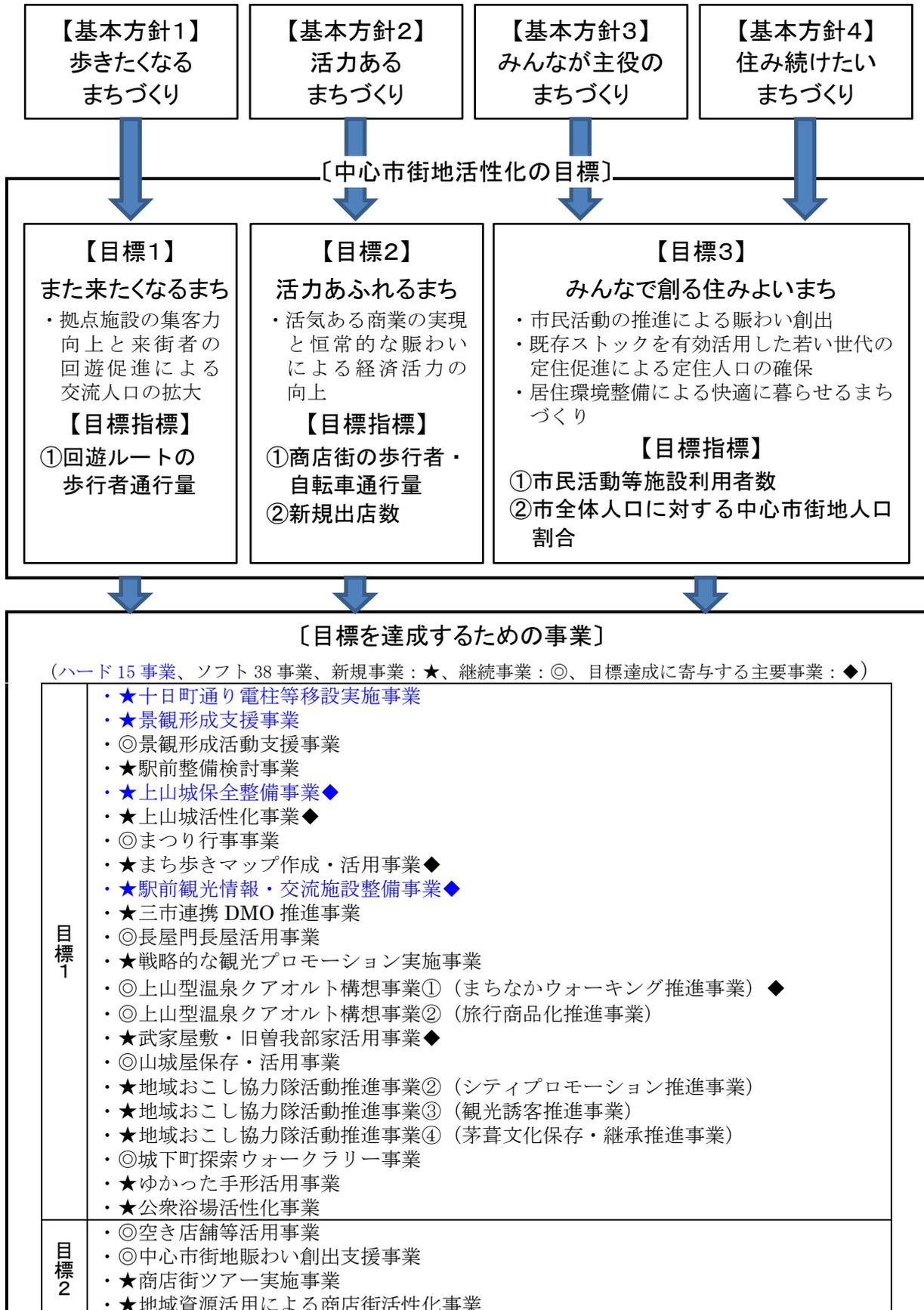
（区域図）



6 中心市街地活性化の目標

(1) 目標・主な事業の体系

基本方針に基づいて次の目標を設定し、3つの魅力を併せ持った中心市街地の形成を目指すものとする。



	<ul style="list-style-type: none"> ・★電子マネー付ポイントカード導入推進事業◆ ・◎中心市街地商業活性化アドバイザー活用事業 ・★経営力強化支援事業 ・◎上山型温泉クアオルト構想事業③（健康ポイント付与事業） ・★カミン再生整備事業⑥（テナントスペース整備事業） ・◎経営革新指導事業 ・◎ふれあい休み処整備事業 ・◎イルミネーション事業 ・◎街路灯統一装飾事業 ・◎宅配事業 ・★カミンと商店街の連携による賑わい創出事業 ・★新規創業支援事業◆
目標3	<ul style="list-style-type: none"> ・★カミン再生整備事業①（子育て支援施設整備事業）◆ ・★カミン再生整備事業②（高齢者サロン整備事業）◆ ・★カミン再生整備事業③（ボランティアサークル活動拠点整備事業）◆ ・★カミン再生整備事業④（中・高校生勉強・交流スペース整備事業） ・★カミン再生整備事業⑤（多世代交流スペース整備事業） ・★図書館・子育て支援施設連携事業 ・◎持家住宅建設等事業 ・★市営住宅建て替え事業◆ ・★地域優良賃貸住宅建設事業◆ ・◎住宅リフォーム等支援事業 ・★空き家バンク活用事業◆ ・★地域おこし協力隊活動推進事業①（移住推進事業） ・★中部地区公民館活用事業◆ ・★市営バス運行事業 ・◎予約制乗合タクシー運行事業

（2）目標設定の考え方

ア 【目標1】また来たくなるまち

（ア）基本的考え方

◇個人・少人数グループ・外国人旅行者に対応した情報発信、観光案内、外国語対応等の受入環境を整備するため駅前観光情報・交流施設を整備するとともに、既存施設の魅力向上により集客を図り交流を促進する。また、前計画で整備した回遊ルートを活かし、上山型温泉クアオルト事業や地域資源を活用しながら回遊性を向上させ、交流人口の拡大を図る。

（イ）目標指標の設定理由

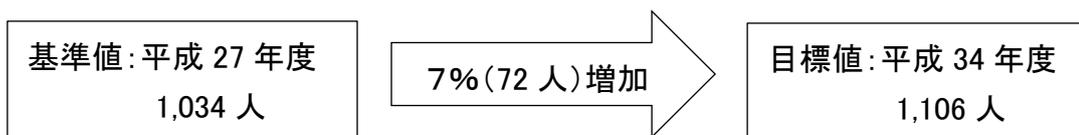
<回遊ルートの歩行者通行量(平日+休日)の平均>

◇交流人口の動向を測るため、主に観光客を想定した観光施設周辺の回遊ルートにおける平日及び休日の歩行者通行量の合計の平均値を目標指標として設定する。

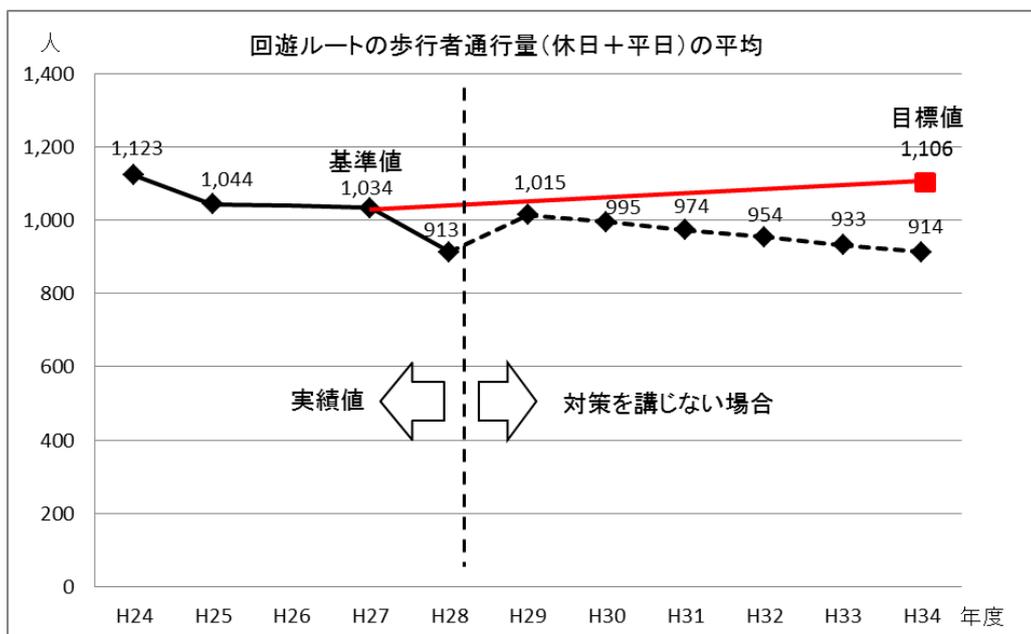
◇前計画では、市民と観光客の交流促進の観点から休日の歩行者通行量を指標にしていたが、本計画では、観光客の旅行形態が団体旅行から個人・小人数グループ旅行に変化し平日の観光客も増加している状況から、観光客の平日及び休日の動向を注視する。また、これまでは休日1日のみの調査で雨天の影響を受けることがあったが、休日と平日の平均をとることでそのリスクを抑える。

(ウ) 目標数値

＜回遊ルートの歩行者通行量(平日+休日)の平均＞



(測定箇所:かみのやま温泉駅前、旧ミヨシヤ前、旧トキワ館前、武家屋敷前)



イ 【目標2】 活力あふれるまち

(ア) 基本的考え方

◇個店の魅力や認知度を向上させきめ細かい商業を展開するとともに、空き店舗を活用し不足業種を誘導するなど、現在の主な来街者である中高年層の満足度の向上に加え、若い世代の来街を促すために商店街の商業機能を強化する。また、上山型温泉クアオルト事業との結びつきを強化し、イベントでの賑わいを恒常的な賑わい維持につなげることによって来街者を増加させ、経済活力の向上を図る。

(イ) 目標指標の設定理由

＜商店街の歩行者・自転車通行量(平日+休日)の平均＞

◇商店街への来街者の動向を測るため、商店街における平日及び休日の歩行者・自転車通行量の合計の平均値を目標指標として設定する。

◇前計画では、市民と観光客の交流促進の観点から休日の歩行者通行量を指標にしていたが、本計画では商店街での賑わいを測るため、来街者の平日及び休日の動向を注視する。特に、商店街の利用者は平日に医療機関や金融機関を利用する高齢者が多く、その動きを見る必要がある。また、新たにカミン再生整備や居住施設整備により生活サービスの充実が図られることから、中心市街地での日常的な活動の高まりが考えられる。

◇前計画では、歩行者通行量を指標にしていたが、本計画では自転車の通行量も加える。市民アンケートや通行量調査等の結果では、中心市街地の移動手段として徒歩だけでなく自転車を利用する場合も多く、カミン再生整備により幅広い年代が集うことから、特に自転車を利用することが多い学生や高齢者の動きを見る必要がある。

<中心市街地内の新規出店数>

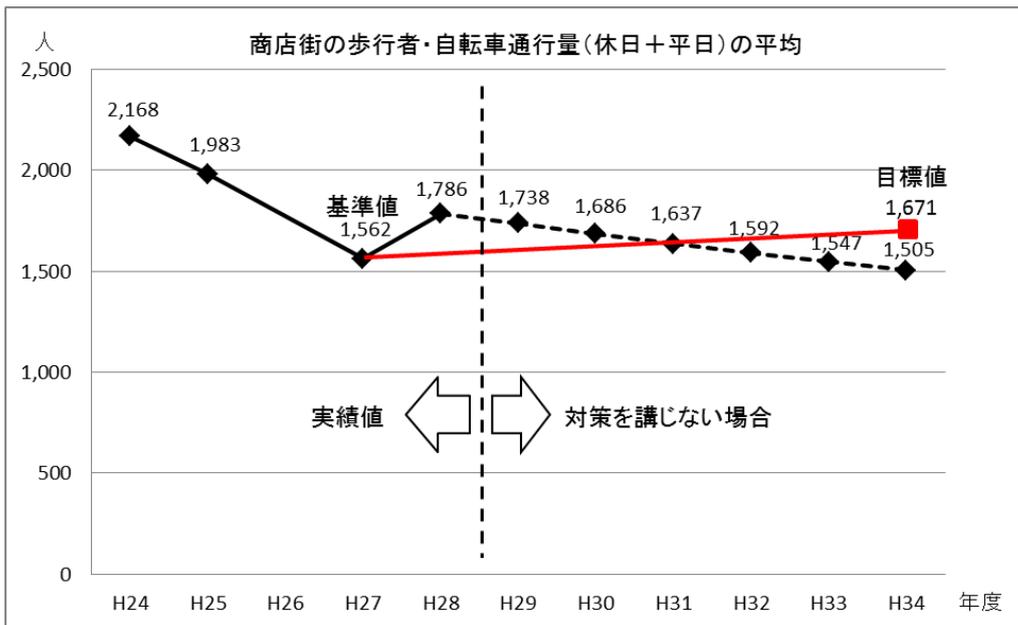
◇商店街の賑わいを創出するためには、飲食店やカフェといった商店街に不足する業種の立地を誘導することで若い世代のニーズに応えとともに、商店街組織への新規加入者を増加させ組織活性化を図ることが必要であることから、計画期間中の中心市街地内での空き店舗活用などによる新規出店数を目標指標として設定する。

(ウ) 目標数値

<商店街の歩行者・自転車通行量(平日+休日)の平均>



(測定箇所：カミン前、やぐら前、石崎 A1 前、矢来三丁目)



<中心市街地内の新規出店数>



ウ 【目標3】 みんなで創る住みよいまち

(ア) 基本的考え方

◇まちなかの多世代の活動拠点としてのカミン再生整備や既存施設の活用によって市民活動を推進し、その活力を中心市街地の賑わい創出に活かす。

◇空き家等の既存ストックの有効活用や居住環境整備によって快適に暮らせるまちづくりを進め、若い世代の定住を促進し、定住人口を確保する。

(イ) 目標指標の設定理由

<市民活動等施設利用者数>

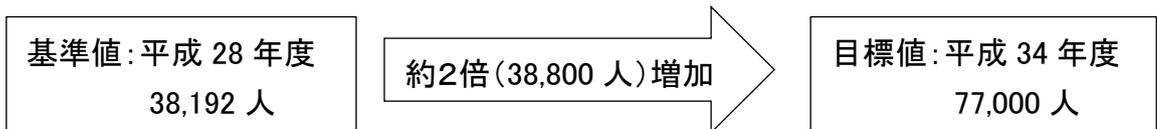
◇景観向上に取り組む市民団体の活動が定着し街並みづくりに寄与するなど、市民活動は住み良いまちづくりにつながる。また、活動拠点を中心として多様な人々が交流し結びつくことが賑わいの創出につながる。そのような市民活動の動向を測るため、年間の市民活動施設利用者数を目標指標として設定する。

<市全体人口に対する中心市街地人口割合>

◇中心市街地の活性化を図り賑わいを維持していくためには、住みよいまちづくりを進め、中心市街地に一定の割合の人口を確保していく必要がある。しかし、市全体・中心市街地どちらにおいても人口減少が進んでおり、それを止めることは困難であり、人口の絶対数を増やすのではなく、相対値である市全体人口に対する中心市街地人口割合を目標指標として設定する。

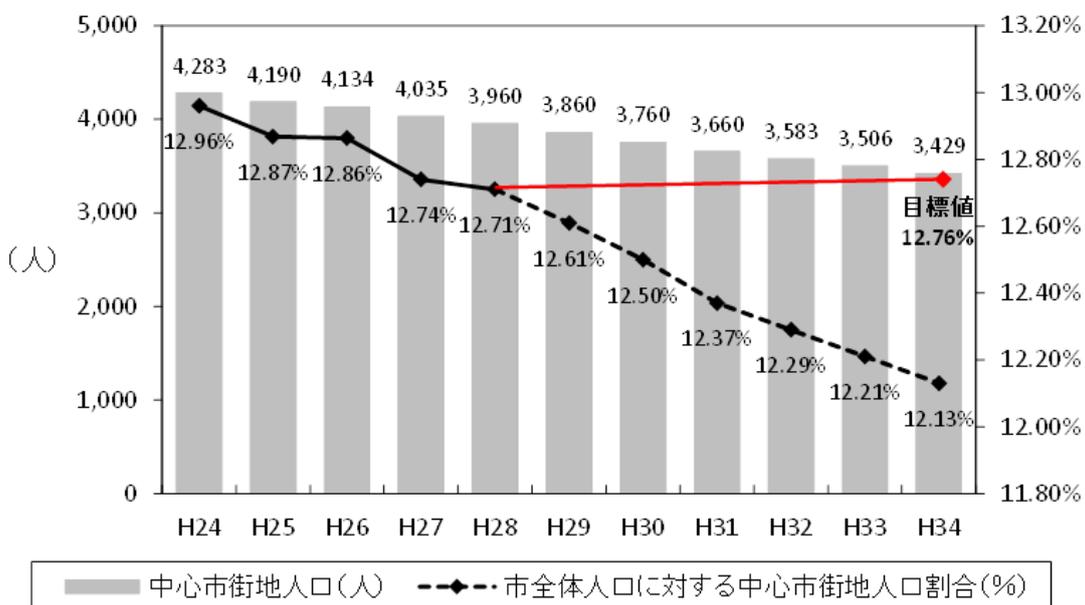
(ウ) 目標数値

<市民活動等施設利用者数>



(対象施設：子育て支援施設、高齢者サロン、中部地区公民館)

<市全体人口に対する中心市街地人口割合>



(3) フォローアップ

計画期間の各年度に各事業の進捗状況を確認するとともに、目標指標に係る数値を把握し、目標指標に対して数値目標の算定に用いた事業の効果がどのように表れているかを検証し、状況に応じて事業の改善措置を講じる。